

氏 名	廣松 勲（ひろまつ いさお）准教授
こんな研究 をしています	①フランコフォニー文学研究（カリブ海域諸島とカナダ・ケベック州） ②地域研究（同上）
こんな成果 を挙げてい ます	①評論：「『たかが世界の終わり』における映像技法：ケベック映画としての／からの出立」『ユリイカ』特集「グザヴィエ・ドラン」，2020年4月号，青土社，2020年，頁数未定。 ②共訳：ピエール・ヌヴー，「ケベックと北米大陸のフランコフォニー（ニューイングランド、アカディア、フランス語圏オンタリオ）」（廣松勲・小松祐子共訳），『ケベック研究』第10号，日本ケベック学会，2018年，93－108頁。 ③評論：「第5章 エドゥアール・グリッサン（1928－2011）：〈関係〉の詩学から全－世界へ」，『国際社会人叢書2：〈境界〉を生きる思想家たち』，榎木玲子／法政大学国際文化学部編，法政大学出版局，2016年，105－129頁。 ④論文：「現代ケベック文学の諸潮流：移民文学と新郷土文学を中心に」，『Nord-Est』第7・8号合併号，日本フランス語フランス文学会東北支部会，2015年，84－105頁。 ⑤編集・翻訳・エッセイ・書評：日本フランス語圏文学研究会会報『Archipels francophones : bulletin du Cercle d'études japonaises des lettres francophones』第5号の編集／巻頭エッセイおよびインタビューの翻訳／エッセイ・書評の執筆，2015年8月4日。 ⑥論文：《Esprit d'avant-garde dans les romans de Raphael Confiant》，dans <i>Experience de l'extreme, la culture et l'art d'entre-deux guerres</i> (Actes du colloque international d'automne 2014), CFAF, 2014, pp. 177-191. ⑦評論：「文学研究における社会」，『総合政策学のための思想研究』第1号，慶應義塾大学総合政策学部・堀茂樹研究会，2013年，24－29頁。 ⑧評論：「文化都市モントリオールにおける現代ハイチ文学」，『遠くて近いケベック：日ケ40年の対話とその未来』（小畑精和・立花英裕編著），御茶の水書房，2013年，275－277頁。 ⑨論文：「パトリック・シャモワゾーにおけるトランスカルチャー：記憶の伝達から伝達の記憶へ」，『Nord-Est』第6号，日本フランス語フランス文学会東北支部，2013年，78－96頁。 ⑩博士論文：《Melancolie postcoloniale : relecture de la memoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Emile Ollivier et Patrick Chamoiseau》，these doctorale presentee a l'Universite de Montreal, Directrice : Lise Gauvin, 2012. *その他：発表、書評、講演会司会・通訳・報告書作成、対談、コミュニティ誌記事など多数。
ほかに、こ んなジャン ルに関心も っています	①ホラー映画，ドキュメンタリー映画（特にフェイク・ドキュメンタリー）における物語・語りの構造 ②実話系怪談小説における物語・語りの構造
こんな授業 を行なっ ています	①2022年度秋学期：「多言語芸術論II」（フランコフォニー文学入門）
学会や社会 でこんな活 動をしてい ます	【受賞歴】①日本学術振興会特別研究員PD（2012年～2014年）／②エミール・オリヴィエ奨学金（2011年，モントリオール大学）／③学会奨励賞（2011年，フランス語フランス文学会） 【所属学会・役職】①日本フランス語教育学会：初中等教育委員／②日本ケベック学会：副会長（2018年～），編集委員長（2016年～2020年）／③日本フランス語フランス文学会／④日本フランス語圏文学研究会／⑤国際フランス語圏研究会議（CIEF） 【その他の活動など】①集中講義（2018年，東北大学）／②「第10回 フランコフォニーを発見しよう」管理運営（2018年，法政大学）／③「北米文化論（ケベック講座）」の開講・管理運営（2018年度～）／④「東日本および西日本高校生フランス語暗唱コンクール」の課題テキスト選定（2013年度～）
私が思う多 文化的かつ、 インターカ ルチュラル な人物	エドゥアール・グリッサン：マルティニック系作家。複数の文化圏に跨りながら、独自の世界観に基づいた詩学を作り上げた。 ダニー・ラフェリエール：ハイチ系ケベック人作家。文化的所属という自明の事柄を問題に付し、文化横断的な自己像を物語にし続けている。 ファビエンヌ・カノール：マルティニック系作家。文化の境界にあることを、フェミニズムを中心とした交差性から考え、物語を書き続けている。